

## 朝型観光の推進による観光地の混雑緩和に関する研究

観光地における渋滞緩和、観光施設の有効利用による環境負荷の低減を目指して

### 背景・研究の目的

訪日外国人旅行者数 政府目標: 4000万人 「明日の日本を支える観光ビジョン」より  
(2016年度は約2400万人、現状の約2倍の目標値)

**【現状】**

- 観光施設の混雑、一定時間帯・期間への集中
- 交通インフラの混雑(観光バス駐車場等)一方で
- 財政制約等から新たな投資は抑制したい

→ 渋滞の発生等による環境負荷の増大が懸念される

- 既存インフラ(交通施設・観光施設)を有効に活用しながら、最大限のサービスを提供する必要がある。
- 施設の稼働効率向上させ環境負荷を低減するためには、観光需要の平準化が有効。
- 外国人旅行者は、季節変動や曜日変動が邦人旅行者と比べて小さいため、1日における時間単位の平準化が有効。

### 我が国の可照時間の現状

日本の標準時刻経度: 東経135度  
国土の重心よりも西寄りに標準時刻経度が設定されている

朝、日出が早く、夕、日没が早い  
朝、明るく、夕、暗い

観光は、景勝地や文化財などの見物やスキー等のスポーツなど屋外の活動が多くを占め、明るい時間帯に行われる場合が多い。  
その一方で、公共交通の始発時刻や観光施設の営業開始時刻が遅い。  
→ 早期の明るい時間帯に観光客誘導の余地がある

例: 京都御所(5月 午前5時)

十分に明るく観光可能である一方で、公共交通によるアクセス不可能

京都駅 → 丸太町 始発5:27

### 標準時刻設定、可照時間と施設の営業時間との関係についての各国比較

#### 経度モーメント

**【定義】**

$$M = \iint_A R (\cos \phi) \lambda \cdot R d\phi \cdot R \cos \phi d\lambda$$

$$= \iint_A R^2 \cos^2 \phi d\lambda d\phi$$

$$= \iint_A R \cos^2 \phi d\lambda d\phi$$

$$= \iint_A \cos \phi d\lambda d\phi$$

$M$ : 経度モーメント  
 $R$ : 球体半径  
 $\lambda$ : 標準時刻子午線経度からの経度差  
 $\phi$ : 緯度  
 $A$ : 対象エリア

**【算出結果】**

国名	経度モーメント [km]
日本	-230.1
米国	363.0
中国	1488.6
フランス	949.1
イタリア	268.2
スペイン	1543.4
韓国	663.7
7ヶ国平均	950.0

- 負の値をとるのは我が国のみ
- 標準時刻が同じである韓国は、日本よりも数値が大きくなる
- 国際的比較しても、我が国の標準時刻設定は特異

#### 可照時間と観光等施設の営業時間

観光関連産業全体の取組が必要

**【可照時間】** 早期の明るい

**【施設営業時間】** 日出～営業開始時刻: 長い

日出～営業開始時刻: 短い

夕食時間帯明るい

**【我が国の現状】**

- 日出時刻から観光施設等の営業開始時刻までが長い。
- 公共交通機関の運行開始時刻が日出時刻よりも遅い。

→ 可照時間内に観光施設を巡る時間が限定されることにより、観光需要を集中させ、混雑を発生させる可能性が大きい。

### 観光業界の認識【アンケート調査】

**アンケートの回答者**

業種	回答数
宿泊業	5
旅行代理店	5
輸送会社	6
小売店	2
観光施設	5

**【問】** 来訪者数がどのように偏っているか、どのように平準化したいか

回答内容

- リゾートは土日、夏休日が混んでおり、逆に都市部は平日が混み、夏休みは空いているので、平準化したい。
- 日本はGWを廃止して、いつでも20日間の有給休暇を取れるようにしたい。
- 主要都市に偏っている観光客を郊外・地方等に分散したい。
- アジア中心の利用者が増えている為、アジア以外の国の利用者が増えるようにしたい。

(他略)

**【問】** 来訪者数の平準化の希望はあるか

	回答数
ある	8
ない	13
無回答	2

観光関連事業者は、今後急増することが予想される観光客の増加に対して、観光業界全体を俯瞰した、観光客の平準化・混雑緩和に対する具体的な対応策を十分に検討していない。

### 今後求められる政策

**抜本的対策** ... サマータイムの導入、標準時刻の変更

**短期的・現実的対策** ... 公共交通機関等の運行開始時刻の繰り上げ

- 観光施設の営業開始時刻の繰り上げ

→ 観光関連産業全体の取組が必要

一般住民と観光客の行動時間の差から生じる治安問題、騒音問題への対応も必要  
携帯電話基地局データ等を用いた観光客の流動把握等も必要

### 課題・今後の研究

- 観光施設、交通施設等の営業時刻の変更が観光需要に与える影響の定量的把握
- 観光需要の変化が観光客の交通行動に与える影響の把握
- 朝型観光の推進に伴う交通渋滞緩和等がCO<sub>2</sub>削減等に及ぼす影響の把握

参考

多くの国において、標準時刻は国土の東寄りに設定されている。(例えばサハラは、我が国よりも2時間時計の針が早い)

CIAホームページより